同志社建学の精神からいって、実業界で活躍した人、また現在活躍しつつある人は、大へん数少ない。ことに名古屋という土地は昔から事大主義的などころがあって、他国者はよほどの才幹の持主でないかぎり、市の一流のレベルに浮び得ない土地柄である。しかし一流の縁系会社や、二流の会社には、それぞれ同志社人が経営陣にその名をつらねているし、個人経営の会社でもそれなりに活躍している。

こうした土地柄であることを最初に申し上げて、過去、現在について、同志社人の活躍をみてみたい。

最初に名を挙げたいのは、やはり日本の「ガス王」「ガス博士」といわれた岡本桜である。明治二十四年同志社普通部に入學、東大応用化学科を首席で卒業、黎明期のガス事業に身を投じて、三十九年東邦ガスの前身である名古屋ガスの創立に参画、大正十年同志社長となり、翌十一年六月に名古屋ガスが東邦ガスとなっても、引き続き社長の職にあり、昭

和十年二月五十六才の若さで永眠するまで、わが国のガス事業の発展のため尽力した。東京ガス副社長の職にもついた。

彼の跡をついで、東邦ガス二代目の社長となつた都留信郎も同志社普通部を出ている。

大阪高工から大正五年岡本先輩に引抜かれて名古屋ガスに入社、岡本桜とともに活躍、さらに東京ガスの常務として中央でも大いに名をあげた。昭和十一年一月、岡本桜の跡をついで東邦ガス二代目社長となり、支那事變、大東亜戦争によるガス需要の急増に善処し、さらに敗戦後、潰滅したガス供給設備復旧のために第一線に立つて活躍したが、そのオーバークが原因でもあったのか、二十三年二月急逝した。彼は同志社時代山川均と同級生として親しんだが、卒業後山川均が都留のために親交を遠慮したと言われている。なお、現在一ツ橋大学教授として活躍している都留重人は彼の長男であることを申添えておこう。

都留と同窓で大隅鉄工所の初期の重鎮であつた氷室真次の名も忘れてはなるまい。「雷

親父」といわれた氷室の正義感、校友会でも有名であつた。彼の甥が往年の早大の名選手で、現在のプロ野球近鉄球団社長芥田武夫である。伊藤政範は東邦ガスから岐阜ガスの常務となつたが戦後間もなく故人となつたし、永い間校友会支部長をつとめた川村修二も一昨年物故したが、生前は名古屋鋼材の代表取締役であつた。

宗教界の古い先輩としては、愛知教会の菅原牧師、瑞穂教会の平田牧師が、キリスト教の普及に努力をした。

*

実業界で現在第一線の人たちは数多いが、ここでは役員の方たちまで筆を止めたいと思つので、その点ご諒解を願いたい。

大正年代の卒業生では十年の法経学部から田原和郎(葵貿易代表取締役) 大橋智(成業社社長) 天羽義雄(中日エージェンント代表取締役) 滝川五三郎(金商常務) 十四年卒では酒井猛夫(東邦コークス販売専務) 黒川俊夫(東海コンクリート取締役)の前期と現在の校友会支部長がいる。また名城大学騒動の中心となつて動いた村井藤十郎(名城大法学部教授)もこの年の卒業である。

*

昭和にはいると、丹羽義雄（日本製粉名古屋工場長）と長谷川清（前愛知日産自動車取締役）の万年青年がともに二年の高商部をでている。三年の大学文科からは加藤龍太郎（名大文学部教授）と同氏夫人の加藤さだ（南山大学文学部教授）のおしどり教授、四年になると、武内実則（東邦タール販売取締役）高野時次（前高野精密工業社長）五年には高商部から西田徳造があり、名古屋の東の大住宅街をバックにしてスーパーマーケット・マルナカを経営して大活躍中である。大学では丹下武一郎（東海液化燃料専務）と紙賢（紙賢社長）の両名がいるが、丹下は昨年物故、紙賢も健康を害して第一線を退いているのは寂しい。六年の高商からは、今井達男（犬山觀光常務理事）と中村文雄（公認会計士、税理士）の二人が働きざかりである。七年には新村猛（名大文学部教授）があり、マスコミにも活躍している。九年の大学出身は、土岐杯三（御器所教会牧師）三好五郎（東和石油取締役）それに野球でならした松井徳三（東邦肥料取締役）があり、松井は現在も社会人野球連盟の理事長としてボールとの縁がきれいな

い。志村義治は英文科出身だが、戦争中は現役将校を志願して南方線戦を暴れまわり、悪運強く無事帰還した。十年の高商からは高木終吉（伊勢久商店代表）十一年には、現在、豊田市長の佐藤保がいる。彼はトヨタ自動車工業に勤務していたが、会社から推されて市長の椅子に坐った。同じ年の坂田三郎は毎日新聞の事業課長として口八丁手八丁の働きをしており、彼の駄じゃれは有名である。十三年になると、石原信郎（名古屋タイムス編集局長）伊藤真光（柏屋貴金属店主）伊藤庄太郎（大阪鉄工取締役）の三人の軌派と呑助が顔をそろえている。真光は社会人と高校野球の審判長をつとめており、庄太郎はゴルフのシングルプレイヤーである。この三人のほか矢作製鉄の秘書役に中島繁がいる。中島の見事な白髪は翌十三年卒業の桜井武雄（石川島播磨重工業総務部長）のはげ頭（つ）とともに校友会支部では、いつも卒業年次を七、八年もくり上げられて憤慨している。十四年の丹羽祥介（丹羽幸商店主）は東海経済クラブ理事長としてその真面目さと手腕が大いに買われている。この十四年には堀英夫（瑞穂計器代表）があり、中小企業経営者としての

苦勞をしている。十六年には前田輝雄（大同製鋼秘書室長）がいるが、木曾駒高原開発Kの常務を兼任して、その顔の広さに物言わせて、本年は大いに働くことであろう。十八年組では昨年、名鉄百貨店の取締役になった林一郎が長い間名鉄本社の企画室におり、その後岐阜の営業の責任者となったが、昨年百貨店入りをして、総務部長となった。

また、秀才の誉たかかった高木勇は、日銀から日棉実業にうつり、現在、取締役名古屋支店長。二十三年の伊藤迪（汎洋通商社長）は、昨年欧米各国を巡り、今や貿易界の重鎮として活躍している。

戦後の卒業生も数多いが、まだ若いのでとくにこの「地図」に書き入れるほどの人はいないようである。しかし非常に多方面にこの若い同志社人がそれぞれの仕事にうちこんでいるので、数年先にはこの「地図」が書き改められるにちがいない。またそうした日が早いことを祈っている。

（昭9大経卒・東邦肥料取締役）